# まちづくり円卓会議報告書

（「子どもの声に向き合うために
今、私たちにできること～」）

西東京市市民協働推進センター

# 目　次


１．要　約　１

２．まちづくり円卓会議　１

2.1 テーマ選定

2.2 開催状況

2.3 まちづくり円卓会議の模様　４

2.4 議論の記録　５

経緯・成果・課題

2.5 アンケート結果　7

３．参考資料　９


（敬称略）

# １．要　約

「まちづくり円卓会議」は、平成 24 年度の新規事業として地域連携促進事業のなかで開始し、以降重点事業として継続実施してきました。

平成 24 年度は「居場所づくり」をテーマにまちづくり円卓会議を２回実施しました。平成 25 年度は、前年度の協議をふまえ、テーマを「障がいのある人もない人も分けない居場所づくり」とし、前年度に引き続いて全５回のまちづくり円卓会議を実施しました。地元の農業者と連携した収穫祭など具体的な居場所づくりの活動も実施できました。また、会議メンバーを中心に自主的に活動するグループの誕生にもつながりました。

平成 26 年度には２つ目のテーマとして「子どもの声に向き合うために～今私たちにできること～」を取り上げることとし、年度内に 2 回、平成 27 年度に 3 回の話合いを継続して実施しました。このまちづくり円卓会議がきっかけとなり、会議メンバーが関わっている「放課後＠カフェ」を後押しするとともに、市内全域に放課後カフェの活動を広げたいとの気運が盛り上がりました。そして、別の会議メンバーが関連する校区で放課後カフェを始めたり、会議メンバーを中心とした自主的に活動するグループ形成に繋がりました。

これまで一緒に話し合う機会のなかった活動分野の違うメンバーが、情報交換し、話し合うことによって新たな事業協力もうまれました。今後も立場の違いを超えて繋がることから新たな展開が期待できるものと思います。

まちづくり円卓会議という仕掛けから、日常的に地域での助け合える関係性づくりにつながり、そのことが地域の課題解決へとつながることで「地域連携促進事業」として意義があるものとなりました。

# ２．まちづくり円卓会議

## 2.1　テーマ選定

平成 26 年度第２回運営委員会でまちづくり円卓会議の年間企画に対する協議を行い、タイムリーかつ緊急性もあるテーマを取り上げるべきとの意見が出され、「子どもの声に向き合うために～今、私たちにできること～」をテーマに選定した。

## 2.2　開催状況

Ⅰ　講演およびまちづくり円卓会議

(1)日時・場所：平成 27 年 2 月 28 日 13:30～16:30　田無総合福祉センター視聴覚室

(2)参加者：講演＆ファシリテーター：安部芳絵（早稲田大学総合人文科学研究センター招聘研究員）と上田美香（日本大学非常勤講師）、会議メンバー7 名、参観者 24 名

(3)会議メンバー：古林美香（西東京市青少年育成会「ひろがり」）、小松真弓（NPO 法人子どもアミーゴ西東京）、高橋薫（NPO 法人稲門寺子屋西東京）、谷隆一（株式

会社タウン通信）、山崎明（有限会社三又酒店）、賀陽賢一（西東京市協働コミュニティ課）、石井一雄（社会福祉法人西東京市社会福祉協議会）

(4)概要：「子どもの声に向き合うために～今、私たちにできること～」をテーマとするまちづくり円卓会議に先立ち、現状把握のため、子ども支援の専門家による講演「子育て支援の視点から」（上田美香）、「子ども支援の視点から」（安部芳絵）を行った。参観者とも感想を共有後、まちづくり円卓会議メンバーによる話合いを進め、子どもをとりまく状況の共有とまちづくり円卓会議メンバーや参観者それぞれの思いを共有した。

Ⅱ　施設見学とまちづくり円卓会議

(1)日時・場所：平成 27 年 3 月 23 日　13:00～15:30
社会福祉法人クリスト・ロア会　聖ヨゼフホーム

(2)参加者：ファシリテーター：安部芳絵（早稲田大学総合人文科学研究センター招聘研究員）と上田美香（日本大学非常勤講師）　施設説明：鹿毛弘通（聖ヨゼフホーム副施設長）　会議メンバー8 名、参観者 19 名

(3)会議メンバー：古林美香（西東京市青少年育成会「ひろがり」）、小松真弓（NPO 法人子どもアミーゴ西東京）、 高橋薫（NPO 法人稲門寺子屋西東京）、谷隆一（株式会社タウン通信）、西原みどり（主任児童委員）、山崎明（有限会社三又酒店）、賀陽賢一（西東京市協働コミュニティ課）、石井一雄（社会福祉法人西東京市社会福祉協議会）

(4)概要：児童養護保護施設の見学等を行った後、「子どもの声に向き合うために～今、私たちにできること～」と題して、第 2 回まちづくり円卓会議を開催、意見交換を行い、山積している課題の共有を行った。

Ⅲ　昨年度の振り返りと今後の方向性についての話合い

(1)日時・場所：平成 27 年 6 月 3 日 10:00～13:00 イングビル会議室

(2)参加者：ファシリテーター：谷川由起子（NPO 法人こども福祉研究所事務局長）、会議メンバー8 名

(3)会議メンバー：古林美香（西東京市青少年育成会「ひろがり」）、小松真弓（NPO 法人子どもアミーゴ西東京）、高橋薫（NPO 法人稲門寺子屋西東京）、谷隆一（株式会社タウン通信）、西原みどり（主任児童委員）、山崎明（有限会社三又酒店）賀陽賢一（西東京市協働コミュニティ課）、石井一雄（社会福祉法人西東京市社会福祉協議会）

(4)概要：昨年度後半に開始した 2 つ目のテーマ「子どもの声に向き合うために～今、私たちにできること～」を引継いで今年度も開催することとした。しかし、昨年度とはファシリテーターが替わったため、まず会議メンバーと昨年度の経緯、内容を確認し合い、その後、話し合う課題の絞り込みを行った。

Ⅳ　まちづくり円卓会議～課題解決に向けての話合い～

(1)日時・場所：平成 27 年 7 月 22 日 14:00～17:00
障害者総合支援センター「フレンドリー」

(2)参加者：ファシリテーター：谷川由起子（NPO 法人こども福祉研究所事務局長）
会議メンバー：7 名、参観者：6 名、

(3)会議メンバー：古林美香（西東京市青少年育成会「ひろがり」）、小松真弓（NPO 法人子どもアミーゴ西東京）、高橋薫（NPO 法人稲門寺子屋西東京）、谷隆一（株式会社タウン通信）、西原みどり（主任児童委員）、賀陽賢一（西東京市協働コミュニティ課）、石井一雄（社会福祉法人西東京市社会福祉協議会）

(4)概要：既に行われている西東京市内の子どもの居場所の事例等を共有した後、居場所についての話し合いを行った。市民が支えることができる部分について本質的な課題解決について話し合った。参観者からも積極的に多様な意見が出された。

Ⅴ　まちづくり円卓会議～課題解決に向けての話合い＆まとめ～

(1)日時・場所：平成 27 年 8 月 3 日 14:00～17:00
障害者総合支援センター「フレンドリー」

(2)参加者：ファシリテーター：谷川由起子（NPO 法人こども福祉研究所事務局長）
会議メンバー：８名、参観者：12 名

(3)会議メンバー：古林美香（西東京市青少年育成会「ひろがり」）、小松真弓氏（NPO 法人子どもアミーゴ西東京）、高橋薫氏（NPO 法人稲門寺子屋西東京）、谷隆一（株式会社タウン通信）、西原みどり（主任児童委員）、山崎明（有限会社三又酒店）、賀陽賢一（西東京市協働コミュニティ課）、石井一雄（社会福祉法人西東京市社会福祉協議会）

(4)概要：テーマ「子どもの声に向き合うために～今、私たちにできること～」の最終回。積極的な話し合いが進み、放課後カフェの事例から今後の具体的な活動の方向性を話し合い、できることからやってみること、自主的な集まりとして（仮）放課後居場所推進協議会を立ち上げることとなった。また、話し合いの成果や積み残した課題についてはまちづくり円卓会議のまとめとしてセンターのホームページで発信していくこととした。

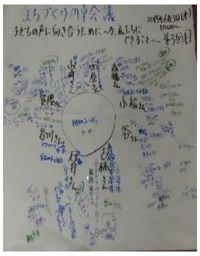
田無第一中学校のようなカフェを市内に広げていく。そのための情報交換の場を今後も有志で引き続き継続していく。２つめのカフェの状況次第で、来年２月あたりに現メンバ-+参観者で現状の共有の会を実施する。

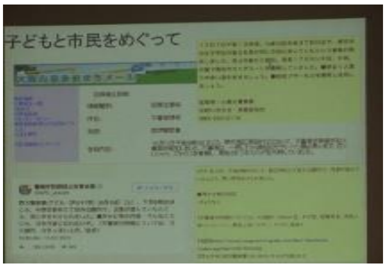
## 2.3 まちづくり円卓会議等の模様

◆2015 年 2 月 28 日

◆2015 年 3 月 23 日

◆2015 年 6 月 3 日






◆2015 年 7 月 22 日

◆2015 年 8 月 3 日

## 2.4 議論の記録（成果と課題）

成　果

まちづくり円卓会議に参加した参観者も子どもをとりまく状況を共有し、円卓会議メンバーとともに共通意識を持ち考え話し合える場を創り出せた。

まちづくり円卓会議メンバー有志等により「（仮）放課後居場所推進委員会」を構成し、今後市内全域に学校あるいは学校単位の地域で、子どもたちが気軽に寄れる居場所「カフェ」（※目的）を市内全域に広げていくこととなった。

※居場所「カフェ」の目的：

子どもたちがいつも過ごしている学校の中に、子どもたちのことを思う地域の大人たちが共通意識のもとで主体的に子どもたちの居場所をつくること。

学校と地域がつながり、日常的に大人と子どもが顔見知りになることで、互いの人間関係、信頼関係を築く。これにより困っている子どもの支援につなげる。

◆経緯◆

＜情報共有＞　次の情報共有がされた

(1)「困っている子、親」が助けを求めにくい、見えにくい

行政や市民活動によるサポートがあっても、周囲の厳しい目、人目を気にする、どうせだめ等の思いから、助けを求めにくい、見えにくい状況にある。

（SOS を出せない子、支えられ下手な親、本音が言えない、個人情報の壁）

(2)サポート情報の周知不足

支援を要する子どもや家族に対する公的な支援、市民の行っているサポート活動等の情報が十分に周知されていない。

＜まちづくり円卓会議で協議する「困っている子ども支援活動」＞

(1)学校、行政が行う子ども支援　（専門性）

支援を要する度合い（危険度）の高い子どもに対しては、学校や行政が行うサポートシステムで対応する。

- 学校：危険度の高い子どもの早期発見・早期対応を目的とする「西東京ルール」他
- 行政：子ども家庭支援センター、児童相談所、警察　他

(2)まちづくり円卓会議で協議する子ども支援　（市民性）

市民的専門性（町をよく知っている、よくしたいという思い）を活かせる活動について話し合うこととした。

＜学校をキーステーションとした活動＞

- 困っている子どもが見えるようにするために、市民によるサポート活動等を実施しても困っている子どもは、そういった活動に参加しない。
- 困っている子どもの状況が深刻化してきたとき、多くの場合不登校などの変化となって現れる。それならば、学校をキーステーションとした活動ができないだろうかと考えた。

＜「放課後＠カフェ」の可能性＞

・まちづくり円卓会議の席上で、メンバーより「放課後＠カフェ」を中学校内で実施したとの事例が報告された。放課後にコーヒーやカルピス等を振る舞い、自由に過ごしてもらうというもの。この中で大人と子どもの間に自然に会話が生まれた。

・学校を拠点に行う「放課後＠カフェ」の活動は、学校と地域がつながり、子どもたちの見守りにもつながる可能性が大きい。<u>日常的につながり顔見知りになることで、人間関係、信頼関係が地域で築かれていく。</u>そのことが、その先にある課題・問題解決につながっていくという共通認識ができ「放課後＠カフェ」を市内に広げていくこととなった。

＜「放課後＠カフェ」の試行＞

田無第一中学校で実施された「放課後＠カフェ」に始まり、２校目には円卓会議メンバーの積極的なアクション、社会福祉協議会の連携、協働により、青嵐中学校での「ブックカフェ」実施への動きにつながった。

＜「（仮）放課後居場所推進委員会」＞

・２校目の動きが出たころに、有志の「（仮）放課後居場所推進委員会」として情報を共有し、居場所を推進していく話し合いを行っていくこととなった。

・「（仮）放課後居場所推進委員会」では、他の地域に広げられるように、2 校の事例から話合いをすすめていくこととする。具体的には、青嵐中学校での実施後、スピンオフのまちづくり円卓会議を開催することとした。

**課　題**（積み残した課題）

課題１　支えられ下手

**支えられ下手な親や子が多い現状がある。**

**<u>子ども自身に発信力をつけていく。</u>**

・自己肯定感をもてるようにする

・子ども自身への支援

・SOS が出せる関係性

・本音の言える関係性

課題２　サポート体制

**既存のサポートに繋がらない現状とサポート情報が伝わっていない現状。**

**<u>子どもに関する情報を一元化する。</u>**

**<u>災害時の対応について</u>**

災害という非常事態では、日常的にできているからこそ対応が可能になる。日常が大事。

非常時に対応できるように、日常的に積み重ねていく。

課題３　個人情報の壁

**困っている親子や子どもの情報がサポートを行なっている市民側に伝わらない。**

**・学校と市民の繋がりをつくる。**

・情報共有

課題４　貧困について

**実態を把握できない状況**

**・社会をかえる**

社会に関心をもつ（政治、行政、議会、まちづくり・・・関心を持つ市民を増やす）

・しんどい親子・子ども

・施設で暮らすこども

課題５　情報発信について

**子どもに関する行政サービス、市民活動等多様に展開されているが、そのことについての情報発信には課題がある。**

**・わかりやすい子育て支援の情報発信が必要**

子どもに関する情報を一元化する。

温もりが伝わる情報提供（**誰から**得た情報なのかということが重要）

・西東京市の子どもの総合窓口である「子ども家庭支援センターのどか」は、市民に周知されていない。（場所、日常的な広報不足、わかり易いリーフレット等にも課題）

・児童相談所全国共通ダイヤル「１８９」（いちはやく）の番号や市民に課せられている虐待通報の義務について周知されていない。

・ダイヤル「１８９」について広報に課題があるとしても、意志ある商店や市民などあらゆる機会を駆使して、周知への努力を行うべき。自分自身も発信し続ける。

## 2.5 アンケート結果

円卓会議メンバー

| | |
|---|---|
| 参加しての評価・成果 | 子ども達をサポートする団体や組織の情報を得られた。そのネットワークの重要性を感じた。情報発信の改善への協力。困っている子どもへの対応は学校がＫＥＹと確信。様々な方からの意見に視野が広がった。公開の意義（思いを伝えられた。）他分野の方と知り合えた。出前講座の紹介。カフェ実現に向けて準備できた。考える機会になった。 |

| | |
|---|---|
| まちづくり円卓会議に関わるために大切なこと・必要なこと | 「できることは何か」という視点にたつこと。課題の明確化・現状の把握・解決に必要な内容の明確化・自分たちができる行動の立案と目的の明確化。自分が持つ情報・体験等を積極的に伝え、理解してもらうこと。自分のフィールド、足元を常に見直し続ける事。目の前の出来る範囲のことをすること。昨日よりすこしだけよい今日、今日より少しだけよい明日を考える。前向きに意見を構築し、持っている情報を適切に提供する。 |
| 会議運営での気づき | 発言内容の見える化による会議進行方向の明示が必要。参観者との関わりを深くする。公開形式は良い。ファシリテーターの進行が良かった。土日の開催の調整。 |
| 円卓会議で取り上げて欲しい課題 | 母子家庭への支援、市民サポート活動<br>高齢者の活動活発化、空き家問題、だれもが生きやすいまちにするには、防災、放課後子ども教室の西東京市での展開の仕方、活かし方。 |
| その他気づき | ゆめこらぼの宣伝強化。ＦＢページを作ってほしい。<br>主任児童委員部会員全体に声をかけたい。コミュニティカフェ併設型ゆめこらぼ。 |

参観者

| | 2 月 28 日 | 3 月 23 日 | 7 月 22 日 | 8 月 3 日 |
|---|---|---|---|---|
| 参観者人数 | 24 人 | 19 人 | 6 人 | 12 人 |
| 回　収　率 | 17 人　71% | 12 人　63% | 5 人　83% | 7 人　58% |
| | 講演･円卓会議への評価は概ね良く、会議の公開について 9 割以上が意義あると回答し、参加意識も高い。 | 施設見学への関心は高かった。話合いの内容をそれぞれが受け止め、多様な感想を抱かれていた。 | 大変参考になった、良く考える等、話合いをしっかり参観されていた。 | 課題ごとに発言できると良かった、一定の方向性が見い出せて素晴らしい、地域で自分も頑張る等、関心度は高まっていた。 |

## ３．参考資料

◆まちづくり円卓会議等での配布参考資料
（レジュメ資料を除く）

2015 年 2 月 28 日

・子どもの声に向き合うために　子育て支援の視点から（日本大学非常勤講師　上田美香）
・子どもの声に向き合うために　子ども視点の視点から（早稲田大学　安部芳江）
・ファシリテーターとまちづくり円卓会議メンバーの紹介
・多様な課題に、対話と協働で挑む「地域円卓会議」のススメ
（http://sr-nn.net/wp/wp-content/uploads/2013/03/chiikientaku_leaflet_final.pdf）

2015 年 3 月 23 日

・ファシリテーターとまちづくり円卓会議メンバーの紹介
・聖ヨゼフホーム通信

2015 年 6 月 3 日

・「子どもの声に向き合うために～今、私たちにできること～」具体的な行動/解決に向けて（講師：谷川由起子パワポ資料）
・ファシリテーターとまちづくり円卓会議メンバーの紹介
・西東京市子育てハンドブック

2015 年 7 月 22 日

・「子どもの声に向き合うために～今、私たちにできること～」（講師：谷川由起子資料）
・ファシリテーターとまちづくり円卓会議メンバーの紹介
・児童相談所全国共通ダイヤル１８９（いちはやく）
・放課後＠カフェ（チラシ）

2015 年８月３日

・「子どもの声に向き合うために～今、私たちにできること～」まとめ　2015. 8. 3（講師：谷川由紀子資料）
・ファシリテーターとまちづくり円卓会議メンバーの紹介

**◆まちづくり円卓会議　メンバー紹介（敬称略）**

**＜平成２６年度　ファシリテーター＞**

安部　芳絵
早稲田大学総合人文科学研究センター招聘研究員

| |
|---|
| 専門は、子ども支援学、子ども参加論、子ども支援専門職論です。現在、子ども参加による復興のまちづくりを支える支援者の専門性とはどのようなものか、公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン等の協力を得て調査研究中です。調査のたびに、東北の子どもたちから元気をもらっているなぁと実感しています。３人の子どもの親です。 |

上田　美香
日本大学　非常勤講師

| |
|---|
| 児童福祉を専門に、保育士や社会福祉士の養成教育に携わりながら、子育て支援の実践的研究を行っています。現在は、10代ママたちの継続的インタビュー調査やグループ支援を通して、10代親支援の研究に取り組んでいます。2007年度には、「西東京市ワイワイプラザ」(西原町)の運営に関わり、子育てを応援したいという西東京市民の皆さんのエネルギーの大きさを感じました。 |

＜平成27年度　ファシリテーター＞

谷川　由起子
NPO法人こども福祉研究所　事務局長

| |
|---|
| NPO法人こども福祉研究所　事務局長、デートDV防止プログラム・ファシリテーター、スクールソーシャルワーカー。2007年度には、「西東京市ワイワイプラザ」（西原町）の運営に関わり、今年度から、「西東京市子育ち・子育てワイワイプラン」専門部会のメンバーとなる。 |

＜会議メンバー＞

古林　美香
西東京市青少年育成会「ひろがり」会長

| |
|---|
| 小学校区ごとに子どもたち向けの活動をしています<br>サバイバル飯炊き(空き缶でご飯炊き)<br>夏祭り・ラジオ体操・餅つき体験・どんど焼き・学習会<br>小学校での活動になるので、学校の協力が得られること、保護者にも安心感をもって活動に参加してもらえること、市から年間24万円の助成金をもらっているので参加費不要のことが強みです。 |

小松　真弓
NPO法人子どもアミーゴ西東京　理事

| |
|---|
| 2006年NPO法人格を取得、翌年4月より西東京市より委託された学童クラブの運営事業を開始。2011年からは青少年特化型の児童センターを受託運営。現在市内6か所の学童クラブと1か所の児童センターを運営。児童センターは0歳～18未満の乳幼児（と保護者）から高校生年代が利用可能です。学童クラブを卒所した後に、児童センターに遊びに来る子どもたちが多いです。 |

高橋　薫
NPO法人稲門寺子屋西東京

| |
|---|
| 経済的理由などで学習の機会に恵まれていない子どもを対象に、授業料/費用：無料、指導者も報酬無料ボランティアで学習指導を実施。<br>2009年11月講座開講　対象：小学5年生～中学3年生　英数国、2014年度状況　講座週4日、講座数：20、受講生徒：62名、指導者：23名<br>強みは受入れ生徒数が多く、受講希望をかなり叶えている、授業日も週４日あり、受講日時の選択がかなり出来ている、無料なので、生徒側の経済的負担がない、ボランティア指導者（教師）の意欲、レベルが高いことです。 |

谷　隆一
株式会社　タウン通信　代表者

地域情報紙を発行。ウェブサイトでの情報発信も。地域情報の要素として、子ども、まちづくり、コミュニティなどは折々、取り上げてきている。それらによってどのような成果が得られているかは不明。
地域紙として 10 万部（市内では約 5 万部）を発行しており、それなりの発言力はあると自負している。取材についても、なるべく掘り下げた内容になるよう、心がけている。「タウン通信」としては６年目の会社だが、代表の谷個人でいえば、この地域で 10 年以上の記者歴があり、地域の特性、概略は理解しているものと思う。

西原　みどり
西東京市　主任児童委員

年度初めに担当の小中学校を民生委員と訪問し、地域の子ども、家庭の情報交換をします。子ども家庭支援センター「のどか」と情報を共有し、子どもの育つ環境を整えていきます。個人情報の枠を越えて、各関係機関に働きかけ、共働します。
学校、保育園などに訪問できます。

山崎　明
(有)三又酒店　谷戸商店街協同組合・六商協議会

「谷戸ふるさと祭」を通じて子供神輿で地域小学生高学年と、当日スタッフとして田無第二中学校生と接する。　【六商協議会】「ひばり祭」を通じて当日スタッフとして田無第二中学校生、ひばりが丘中学校生と接する。　【個人】少年野球チームの父兄スタッフ及びＯＢとして 10 年に渡り携わる。
様々な活動通じ、子供達との挨拶を含めコミュニケーションを行ってきました。これに伴い親の方々とも交流が持てています。強みは地域イベント開催により地域小中学校生イベントスタッフとして触れ合う機会をもてる、
地域イベントにより地域の方々の交流の場を提供していることです。

石井　一雄
西東京市社会福祉協議会地域福祉推進係　係長

安心して暮らせるまちづくりを目ざして地域福祉活動を行っています。現在、市内に２０の住民懇談会を組織して地域の皆さんの自主的な地域福祉活動をすすめています。地域での子どもたちの安全をはかるため、通学路のパトロールや見守りを行ったり、よろず相談にも応じています。地域に根ざした住民による助けあい活動を行うことができます。また、住民懇談会活動を通しての地域の様々な人、機関、社会資源とのネットワークがあります。また市内に５か所の活動拠点があり、様々な福祉活動を運営する場所として活用できます。

賀陽　賢一
西東京市協働コミュニティ課　主任

協働コミュニティ課では、地域コミュニティの再生、協働の推進などの事業を行っています。
協働の推進事業なかで市民協働推進センター事業を行っています。